

事務局より

富山市在住の北会常任幹事の 26 期 岡田美乃利さんより、岡田さんが地域で関わっている大きな地域行事である「水橋橋まつり 150 年祭」の纏め感想文が寄せられました。地域で元気にご活躍されている様子が書かれています。北辰会の仲間が地域で大きな役割を果たしておられることに嬉しさと誇りを持ちました。なお、関連記事として 2018 年 7 月 24 日「北辰 HP」～北辰会の広場～に掲載された“水橋橋まつり「150 年祭記念誌」を編集して”も合わせてお読み下さい。岡田さんには北辰会報やHPに多くの記事を寄せて頂いています。

2018 年 10 月 24 日

「水橋橋まつり 150 年祭」を終えて

26 期 岡田 美乃利

富山市水橋地区の「橋まつり 150 年祭」反省会は収支決算の監査が終えたので 10 月 19 日に 5 小学校区の自治振興会会長、警察、消防署、実行委員会の約 50 名が出席をして開催致しました。今年の 150 年祭は台風 12 号の関係で 7 月 28 日第一日の花火大会は全て 8 月 19 日に延期しました。

自然災害の関係で事前に実施か延期かは、相当の熟慮。関係機関との意見交流などが必要なのは言うまでもないが、結論を出すのに躊躇せず、又、カラ振りも恐れず、安全第一に「延期」の結論を出したのは勇断であったと思っています。万が一、事故があったならば、提灯・吹き流しの破損料数十万～からその他の損害料含め 200 万～300 万円の可能性が有りました。

私は 150 年祭を成功させるため実行委員会の一翼を担い、「150 年祭記念誌」の編集長を引き受けました。初めての 2 日間の開催、花火大会、ドリーム演奏、講演会、展示会、記念誌と成功したと思います。

地域に誇りを持ち、根づき、若者を育て、地域の活性化と人々の結び付きを強めたと思います。

橋まつりが毎年喜んで開催され 200 年祭を迎える展望をつくり、その地固めになったと思っています。私は実行委員として地元のテレビ番組、新聞記事、小学校での小講演会に多数参加させて頂きました。

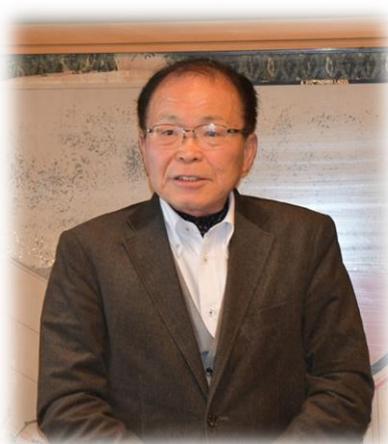
私自身も多くの人を知り、助けて頂き元気と和やかさを頂きました。大きな財産を頂きました。

一、開催内容に関して

① 第一部 ドリーム演奏

2 日目行事は予定通りパレードを変更して 7 月 20 日水橋会館室内で開催されました。小学校 1 校、中学校 2 校、高校 1 校のドリーム演奏が行われ、生徒の保護者・市民なども観客に訪れ、会館は満席で立ち見が出るほどの賑わいをみせ、大いに盛り上がった。

後日、各学校を「150 年祭記念誌」の追加注文（無料）が無いかということと各出演



岡田美乃利 常任幹事

や花火大会翌日の掃除などへのお礼を述べての訪問には「猛暑の中での外での演奏が無く、会館で演奏ができたことは良かった」と歓迎されました

② 第二部「橋まつりと水橋の歴史」の講演会

記念講演会は講師に伊藤昭さんと角川歴彦氏（角川文庫社長、祖父が水橋出身）を予定していました。しかし、角川さんの体調不良で急遽、2018年冬季オリンピック代表選手・水橋在住の 広野あさみさん に交代して頂きました。お二人の講演は角川氏の穴を十分埋める内容となりました。

③ 150年祭記念「橋まつりと水橋の歴史」展示会

会館別室で水橋郷土資料館友の会が資料や図面をパネルにして展示、また、150年祭記念誌編集委員会が記念誌作成の際に市民の各位からお寄せいただいた写真や資料を展示致しました。この展示で特に注目を集めたのが立山橋架橋当時の立山橋近辺の地図と、更には立山橋架橋の際に 1,000 本を超える大木をどの地域から何本抛出されたか、などに興味が集まりました。

又、この展示では架橋当時の現場周辺の家の名前入りの住宅地図などが注目されました。

二、 後日、お聞きした感想・意見など

- ① 今年の花火は特に迫力が凄かった。思わず拍手が出た。これまで以上の拍手ではなかったか。
- ② 火流しはきれいに流れていて、しかも多数で見応えがあった。芸術品並だ。
- ③ 街並みランタンもきれいだったね。
- ④ 伊藤さんの記念講演では「立山橋の架橋は当時の歴史的背景を考えると正に『奇跡的』と言える事業だったのがよくわかった。先人に『感謝・感謝』です。
- ⑤ 学校では「記念誌を使つての授業をやりたい」と校長が語っていた。

三、 反省会で出された意見

- ① 10月19日の反省会で、ある企業の代表から「講演当日、伊藤さんの配布していた資料『欲しい』と要請したが『部数は品切れです』と言われ、もらえなかった。できたら地域での資料にしたいので貰えないか」などの要望が有りました。
- ② また、その反省会で「記念誌は歴史的なものだよ。スゴイ記念誌になったね」反響が未だあるのに編集に携わった者として感動しました。
- ③ 地元新聞（北日本新聞で発行部数割合は県内の6割位）が11月3日の文化の日になんで北日本新聞文化賞のなかの地域文化賞の8団体のなかの1つに「水橋橋まつり」が11月2日に表彰されることが10月18付けの北日本新聞紙上に発表された。嬉しく誇りに思います。

私が地元のスーパーで買い物をしていると数名の方から「表彰されるのですね。おめでとうございます」の声や「新聞みたよ。良かったね」などの電話がかかっています。

四、 最後に

橋まつりは水橋地域の5自治振興会の一致協力した団結力と次世代に末永く、この橋まつりが継承発展されることを願つてのお祭り、それが原点ですが、初期の目標は達成されたものと思っています。さらにこれを豊かに地域住民が一体となった水橋地域になればと願っています。



北日本新聞の報道による表彰記事・2018年10月18日付け

2018.10.18 北日本

明治から途切れず150回 水橋橋まつり協議会

会長・鹿熊 兼一氏 事務局・富山市水橋辻ケ堂



1869（明治2）年に始まった「水橋橋まつり」を毎年夏に開いている。時代に合わせて形を変えながらも、途切れることなく続け、今年150回目を迎えた。

橋まつりは水橋川（現白岩川）に架かる立山橋（現東西橋）の完工を祝って花火を打ち上げたのが起源。現在は東西橋を中心に、日中はステージショー、夜は火流しや花火など多彩なイベントを行う。

今回は初めて2日間に分けて開いた。5地区対抗の綱引き大会や例年よりも打ち上げ数が多い花火で盛り上げた。橋まつりの歴史にまつわる講演会や地元の児童生徒による演奏会もあり、多くの人が訪れた。

鹿熊兼一会長（67）は「今年を一つの節目とし、地域全体のまつりとして未来につないでいきたい」と話した。



今年のまつりのポスターを手にする鹿熊会長（前列中央）と協議会員（富山市北商工会水橋支部）

写真：後列 左から2人目 岡田さん